

重点プロジェクトにはならなかったプロジェクトのご紹介

3つの重点プロジェクトのほかにも、たくさんのプロジェクト提案がありました（重点プロジェクトは裏に記載）。

集いの場

何でもいいから（一人一つ）町のために自分ができること運動をする

緑ヶ丘の町営住宅は老人が多いと聞いているので、集会所で老人のためのイベントを沢山行えたら良いと思う

地域で子育てプロジェクト

3 小学校の生徒が同じ中学校に行くことになるので、小学校間の交流が増えると良い

カミナリ親父、おせっかいオバサンをどんどん増やそう

これからもずっと子育てしやすい町に

まちづくりプロジェクト

花美坂のように新しい住宅を建てる。土地を開拓して人口減をできるだけ止めたいと思う

道路等の草刈りの頻度を上げ、環境美化アップ

芦屋 中洲化計画

呑み屋が多い。交通の便が良くなればもっと良くなる

何だかんだ言っても、やはり食べ物が旨い

景観の良い場所が多い。ビアガーデンしたい

特産品に力を入れる

産業振興プロジェクト

芦屋町をもっと発展させるため、企業の誘致ができないか

芦屋に合った新しい産業探し

世界オンライン計画

他の町にない新種の特産物研究から実現まで

住民、店舗増加プロジェクト

町の空き地、町営住宅の空き地を売って、住居を増やす

農業・漁業を支援。担い手を支援するプロジェクトを立ち上げる

商店街の家賃を安くし、商店街の空き店舗を減らす

区加入率を上げる



2時間のワークショップで提案されたプロジェクトは、合計22個！
住民・事業者・行政が一丸となって取り組む姿がイメージできますね。

住民ワークショップへのご参加のお礼

この度は住民ワークショップにご参加をいただき、誠にありがとうございました。平日の夜とお忙しい時間にも関わらず、多くの方がお越しくださいました。

皆さまの第5次総合振興計画の評価と、第6次総合振興計画に向けた提案は、貴重なご意見として計画策定に活用させていただきます。令和2年度の第6次総合振興計画案の公表まで、しばらくお待ちください。



第6次芦屋町総合振興計画策定に向けた

住民ワークショップニュース

2号

芦屋町の重点プロジェクトと将来像を検討しました！

プログラム

1. 開会・あいさつ
2. 前回の振り返り、本日のプログラム
3. 参加者自己紹介
4. ワーク「まちを良くする100の戦略」
5. ワーク「芦屋町の将来像」
5. グループ発表
6. まとめ
7. 閉会



ワークショップの構成

第1回

令和元年11月28日（木）
テーマ
「今までのまちづくり」を振り返ろう

第2回

令和元年12月19日（木）
テーマ
「未来のまちづくりの方針」を考えよう

現在、本町では、新たな「第6次芦屋町総合振興計画」の策定に取り組んでいます。計画の策定にあたって、住民の皆さんのご意見をお聞きし、計画に反映させていくために、住民ワークショップを開催しています。

第1回目の「芦屋町の通信簿」の作成では、これまでの10年間の芦屋町の取組みについて、住民の皆さんの目線で評価を行いました。

この結果を踏まえ、第2回目となる今回は、まず次の10年間における取組みについてアイデア出しを行いました。そのアイデアは「芦屋町をどんな風に良くするのか？（目標は何か?）」という視点から“プロジェクト”としてまとめていきました。

そして、プロジェクトに取り組んだ結果、「10年後の芦屋町はどんな姿だろう？」をイメージして、芦屋町の新たな将来像のキャッチフレーズを考えました。



次の10年間の「芦屋町の将来像&3つの重点プロジェクト」

5班に分かれ、第6次芦屋町総合振興計画における取組みアイデアを出していきました。その後、アイデアを「プロジェクト」としてグルーピングを行い、次の10年間で目指す「芦屋町の将来像」としてキャッチフレーズを作成しました。

●○1班●○

温もりでつながる芦屋町 ぬくもりで繋がる芦屋町

交通の利便性改善大作戦

交通利便性の改善

町内を回っている無料バスを有料(100円)にしてでも、回数を増やして、誰でも乗れるように

芦屋町から金メダリスト

スポーツ選手への強化予算をつける(芦屋の子)

健康な町

高齢者
スポーツの
充実

芦屋に足を 運んでもらおう

女子会ができるお店を増やす

イベントの宣伝強化
環境を活かした施設

海岸道路の利用
→町の活性化

衣料品等も扱う大型店を

海産物を取り扱う
食事処を町の中心に

マンガの聖地となり、集客へ活かす

●○2班●○

人・自然・文化 魅力あふれる芦屋町

海と夕日の プロジェクト

海の活用

芦屋の夕陽を
売り出そう

芦屋釜の里に
結婚式場を併
設できないか

芦屋に足を運んでもら
い、良く知ってもらう

新たに道の駅を造った
ら、人が集まるのでは

常設の砂像展示場設置

各イベントの
関連性。単発
ではダメ

町民誰もがイ
メージできる
芦屋像を作る

交通アクセスプロジェクト

車がないと不便なので
交通の便を良くし、もっ
と町外とのアクセスを

高齢者に優しい交通手
段の確保

ご近所さんプロジェクト

声をかける・話をする

興味のある自治区作り

町民が町に本音を言
える場

特色のある町づくり

町民体育祭
のような町
民全体のイ
ベント

アッシー
グラウンド
の有効利用

●○3班●○

あしたもあしや ～人、海、文化で『魅せる』まち～

交通革命

高齢化も意識し、
交通手段を充実

岡垣方面にもバス

元気な芦屋っ子政策

明るい子どもたち
学力向上意識が高
い

防災・防犯意識の向上

登山やキャンプなど、子
どもの体験プログラム増
へ

ケータイゼロからケー
タイ知識最高の町へ

芦屋の心、再発見 + そうだ、芦屋に行ってみよう

福祉活動・ボラン
ティアの参加や人情味
が厚い人が多い

少ない農家でもレ
ベルの高い農作物
→独自の農業祭な
どしては？

学生が行きやす
い店を増やす

ボートレース場
の駐車スペース
を使って祭りや
音楽イベント等

広報が弱い

祭りあしやの開催場所

芦屋⇔岡垣⇔宗像を行き
来するサイクリング大会

砂像、ボートレース、基
地等を活かした町づくり

夢リアホールの活用

●○4班●○

歴史と文化を彩るまち あしや

安全

下校時の見守りが無い

青パトの活用

人口を増やす

芦屋町 TV

芦屋高校

ボランティア団体、活動者
を町に広める

芦屋中央病院の評判を向上

行事参加者が固定している

役場の職員の半分以上が
町外居住者。町内者を多く
採用

遠賀川を利用し、山鹿、芦屋で
の源平合戦的な祭りを開催

川筋男の心意気的な祭り。子
どもの部、大人の部、壮年の部

産業、観光

働く場所を増やす

ボートレース
芦屋の有効活用

八朔の馬を作り、
後継者育成のため
小学校で教える

城山に城を作り、ベルトコン
ベヤーで上が
れるように

幅広い年齢層で
1年中遊べる場
所作り

魚見公園、展望
台へのバイク
での乗り入れ

アクアシアンの
ドーム化

●○5班●○

あしや町 WO 世界へ ～one team を目指して～

観光 PON PON プロジェクト

一年を通じ観光客を増
やす(施設を作る)

観光資源の有効活用が
必要

周知されているイベントがある(花
火や砂像)

町内イベントをもっと広く広告・宣伝

子どものためのイベントで家族を集客

人に優しくプロジェクト

特別支援学校がある

医療・福祉の充実を
売りにする

高齢者や障がい者の
住み良い町に

クリーンな町作り

住民の意見よりも、決まった人の
意見しか反映されない。クリーン
な町作りを

本当の意味で、住民の意見を吸
い上げる

■グループワークの成果

